

## 第 16 話 文化文政時代と天保の改革

引き続いて泰平を謳われた文化文政の時代に、早くも現れた幕府衰亡の兆。  
水野忠邦が短兵急に、再び享保・寛政の昔に復そうとして失敗する。  
いわゆる水越の改革。

### 家斉の政治

定信が職を退いた時に、將軍家斉はすでに 22 才でしたので、この後は自ら政治をすることにした。爾来 45 年、彼は 65 才に至るまでその職にいて、子の家慶に將軍職を譲って後も、大御所としてなお政治の実権を握っていた。実に徳川將軍のうちで、彼ほど長く政治を行った者も無ければ、また、彼の時代ほど天下が無事で、泰平らしく治まっていた時代もなかったのです。

### 江戸の 2 大文化時代

そもそも江戸時代の 2 大文化時代としては、五代將軍綱吉の元禄時代と、この家斉の文化文政時代とが挙げられるのですが、このうち元禄時代は、文化の中心がまだ京阪（京都・大阪）地方に在ったのに反して、文化文政時代は、その中心がすでに全く江戸に移っていました。蓋し江戸が繁昌するにつれて、京阪地方の文化が次第に江戸に移植されて、江戸流の文化をつくったのです。



十一代將軍 徳川家斉

こうしてこの時代には江戸文化として最も特色のある文学や美術も盛んに行われたが、（それらの事に就いては次の「江戸時代の文化」の話で改めて語ります。）それと同時に、一方、上下ともに泰平に狂れて、ひたすら遊樂に耽り、奢侈安逸を事としていたので、士風はおのづから頹れ、役人も生活に苦しんで、商人から金を借りて体面をつくらうような有様になっていた。わけても最も驕奢を極めたのは將軍家斉でして、彼は奥庭の池に有平糖（注：棒状の砂糖菓子）の橋を架けるといような馬鹿げた事までしたのです。

### 天下泰平の裏面

しかしこの時、いわゆる天下泰平の裏面を見れば、すでに尊王の大義を説いて、武家政治が我が国体にもとる所以を論ずる者もあれば、西洋諸国の開化を説いて、鎖国の時代おくれを論ずる群もあり、又、しきりに国防を論じて攘夷を主張する 1 派もあつたのです。ただそれらが輿論となって大いに天下を動かすまでには至らなかつただけで、決して人心は安定してなどは無かつたのです。すなわち、泰平無事は、いうまでもなくただ表面だけのことだったのでした。

## 第16話 文化文政時代と天保の改革

### 江戸幕府の全盛時代

その上、将軍家斉が栄耀栄華にその日を送って、久しく驕奢を事としていたために、幕府の財政はすでに頗る窮乏を告げていたのです。武力もまた、久しく武士が武芸を忘れていた時代ですから、もとより恃むに足らなかつたのは言うまでもありません。江戸幕府は、家斉の時代を頂点として、その後は、急に滅亡の谷へと降って行ったのですから、世人が家斉時代の幕府の全盛を評して、将に消えんとする灯火の一時にぱっと光を増すのに譬えているのは当たっています。

### 天保の飢饉

さて、とかくするうち、天保3年のころから全国に飢饉が打ち続いたが、同8年にはその極に達して、貧民の餓死する者が甚だ多かつた。江戸では、さすがに幕府が貧民に米や銭を与えて、救助の道を講じていたが、大阪では全くこの事が無かつたので、貧民の困苦は目も当てられない有様でした。このころ、大阪奉行の元の与力に大塩平八郎という者がいた。陽明学者で武芸にも達していた。彼はこの惨状を見るに忍びなかつたので、町奉行に上書して、官の米倉を開いて貧民に施すように請うた。

### 大塩騒動

ところが、時に町奉行跡部山城守は、その建議を顧みようとしなかつたので、平八郎は大いに怒り、先づ自分の家財や書籍を売り払ってその代金を貧民に施したが、もとより九牛の一毛に過ぎなかつたので、この上は、大阪市内の豪商らの蓄えている米穀を奪い、これを貧民に施そうと、密かに同志を糾合して、天保8年2月、ついに兵を挙げた。ところが同志のうちに変心して、町奉行に密告した者があつたので、忽ち大阪城代の兵に破られて、平八郎は自殺した。世に大塩騒動という。実に、島原の乱後、公然と幕府に反抗したのはこれが最初であつて、江戸泰平の時代はこうして崩れ始めたのです。

この乱後2ヶ月、天保8年の4月に家斉は職を子家慶に譲り、4年後の同12年の閏正月に69才で薨じた。

### 水野忠邦と天保の改革

家斉の薨後、第十二代将軍家慶は、特に老中水野忠邦を用いて、くづれた風儀を改めさせようとした。忠邦はその性質が頗る厳格で英敏でした。

夙に松平定信を慕い、大いに当時の墮落した風俗を歎いていたので、今や家慶の信任を受けると、天保12年の5月以後、しばしば儉約の令を出して、きびしく奢侈を禁じ、また武芸を励まして、柔弱遊惰の風俗を矯めて寛政の治にかえそうとした。世にこれを天保の改革と言います。



みずのただくに  
水野忠邦

## 第 16 話 文化文政時代と天保の改革

ところが、その法令があまりに細かく、取締りもまた厳重で、芝居や浄瑠璃などの興業を制限し、あるいは禁止して、華美の衣服や異様な風体を差し止め、小説の出版を停止したくらはまだしも、高価な菓子類や料理を禁じて、野菜のはしり（初物）を売らさない。さらに甚だしいのは、髪を結うには必ず蕘を使わせ、また、贅沢な下駄を穿いたからと獄に入れるような事までしたのです。子供のおもちゃの如くも、幼年の時からよい品を見慣れさせると、自然と奢侈に導くものであるからと言って、高価な品はこれを売買させなかった。

### 水越の改革の失敗

これらは、なお僅かにその一端であり、士民男女一切の日常生活に巨細まで及んで万時に強く干渉したのです。それで、一時は多少の功もあらわれたが、いかにも短兵急な改革でしたので、先づ幕府の大奥の女性達から反対が起こり、一般の者もこれに和して、「水越の改革」と譏って怨みの声を挙げた。水越とは彼が越前守であったからです。

こうして忠邦は、内外相応じての喧すしい非難攻撃の聲のうちに天保 14 年閏 9 月に、俄かに職を免ぜられたので、折角に令した質素儉約は忽ち崩れて、世はまた間もなく元の奢侈贅沢の弊風にかえりました。

さて、幕府はこれより次第に衰え、いわゆる幕末の乱世になるのですが、その話に入る前に、一応江戸時代の文化を、次の話で簡単に見ておきましょう。

（ 第 16 話 文化文政時代と天保の改革 終わり。 次は前頁に戻り、第 17 話 江戸時代の文化 に ）